Gumma CMS　“地域”で生ききる！

群馬県地域密着型サービス連絡協議会・会報

あんじゃーない！

第２９号・・・平成２９年３月発行

会長あいさつ　　恩田 初男

２８年度も残すところわずかな期間となりました。会員の皆さまのご協力により、本年度の事業も順調に進んでいます。

本年度は単独型の認知症デイサービス事業者の方々にも、新たに会員として参加していただくことになりました。参加事業所はまだ少ないですが、さまざな工夫を行い認知症の人の生活を支えていることが、情報交換会で理解出来ました。課題としては、認知症のデイサービスがサービスとして浸透しておらず、利用者の獲得に苦戦していることが覗えます。情報交換会を中心として取り組みを行っていきたいと思います。

またグループホーム・小規模多機能事業所、認知症デイサービスの管理者に対する研修として、新たに「マネージャー研修」を予定しました。小さな事業所であるがゆえに管理者の役割が多岐にわたり、運営に不安を感じている管理者が多数いると思われます。人材育成の観点から管理者に対して研修を行いたいと思います。

そして会員の皆さまの共通の課題として介護労働者不足があります。労働人口が減少する中で、介護を必要とする高齢者は増加しています。まさに制度があっても介護サービスが提供できない状況が近づいています。この課題は早急な解決はなかなか困難と思われます。先を見据えた取り組みを、行政や介護を担っている他の事業団体とも協働しながら取りみたいと考えております。

今後の予定

定期総会

H２９年 ５月２３日（火）

群馬県社会福祉総合センター
８階大ホール

今回は講演はなく、県内事業所の新たな試み（認知症カフェやサロン等）の紹介、運営のメリット、デメリットなどをお話しいただく予定です。
皆さまのご参加、お待ちしております！

進化した真夏の大会

前年度に続き、２日間にわたる夏の開催となりました。
大会テーマは「笑顔と希望に溢れる仕事～介護という名のテーマパークへようこそ～」。
基調講演では、ディズニー研修の講師の方と、元吉本興業の芸人で現在デイサービスの施設長さんをお呼びしました。大会テーマとリンクした講演はどちらも大変好評で、心に響く熱いお話をうかがえました。初めて事例発表に取り組んだ事業所もあり、事例の数も増えました。

前回同様、県内で福祉を学んでいる学生の皆さんに、企画会議から当日の運営、反省会まで参加していただきました。学校側のご理解も得られ、参加校も増えて、授業の一環として学生さんが参加した学校もありました。事例発表では先生にもコメンテーターとしてご参加いただき、「学校では学べないことを学べる」「現場の生の声に直に触れられて大変良かった」とのご感想をいただいています。お忙しい中のご参加に、改めて感謝いたします。

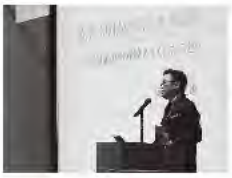
企画から参加した学生さんにもこの仕事の楽しさが伝わり、「地域密着型サービスの事業所に就業したい！」という声も聞かれ、介護人材不足の対策を背景にした試みは、少しずつですが着実に学生さんたちの心に根付いていると感じる事ができました。

今後は大会の形を変化させて、グレードアップを考えていきたいと、役員会の議題で上がっています。地域へアピールするためにブロック毎に開催してはどうか？これまでの事例を再利用し、会員事業所に貸し出しが出来ないか？など、様々な角度から検討中です。皆さまもぜひ、ご意見等お寄せください。

↑学生さんも交えた実行委員会

反省会の一コマ

定期総会　H28.5月27日　群馬県社会福祉総合センター



総会では認知症デイサービス事業者の加入や会費等の承認をいただき、総会終了後には加入受付加入を始めました。認知症の方への介護に特化している事業者の方を「仲間」に迎え、今後も支援の輪を広げていきたいと思います。講演は詩人の藤川幸之助さん。お母様の介護経験から語られた正直な想いは心に深く響きました。参加者の方からは「この講演を聞けて良かった、明日からの仕事に活かしていきたい」などの感想をいただきました。

新任者研修　H28.6月24日　群馬県社会福祉総合センター

コミュニケーションスキルやビジネスマナー、指示の受け方などにを学ぶ研修です。ロールプレイが多く、皆さん楽しく学べたようです。また「学びの実践」ということで、管理者等の方にご協力いただき、職場に戻ってからのフォローアップを実施しています。管理者等の方々へのアンケートでは「学んだことを一つでも多く実践していくことができるように見守りたい」と、新任者の成長を願う声がありました。

リーダー研修　H29.2月1・2日　群馬県社会福祉総合センター

リーダーの役割を知り、コミュニケーション力や職場づくり、指導や育成力、自己啓発など、必要なスキルを身につける研修。実践やグループワークの時間も多く設けられているので、皆仲良くなり笑顔もあふれ、休憩中も盛り上がりをみせていました。第9回目を迎えた増田先生の研修は、わかりやすく大変好評です。

管理者等研修　H28.12月1・2日　伊香保・ホテル天坊

今年度の講演テーマは虐待。「鼻めがねという暴力」の著者であり、全国GH団体連合会の副代表の林田さんをお迎えしました。自身の施設で起きた虐待を包み隠さず話され、虐待につながる言動や、虐待が発覚した時の対応についてお話いただきました。どこでも起こりうる虐待。その芽を小さなうちに摘みとっておく重要性や、予防のヒントがたくさん詰まっていました。
第2部は「地域を支える、地域密着型サービスを考える」をテーマにしたディスカッション。誰にどんな取り組みをなぜ行うのか？地域との関係づくりは？など…私たちの立ち位置の再確認や、これからを見据えた事業所の見直しに役立つ内容となりました。

相談窓口研修　H29.2月7日　群馬県社会福祉総合センター

昨年度新たに始めたこの研修も、第3回目を迎えました。毎回たくさんの方が受講されています。事業所が地域に必要な存在となるための手段の1つとして、相談窓口の開設は有効と考えます。この取り組みは県や市町村等、関係行政からも注目されているようです。

研修部　活動報告

部長・伊藤慎一

会員事業所の皆さまにおかれましては、今年度も当連絡協議会の研修事業に多大なるご協力をいただき、ありがとうございました。平成２８年度の研修事業についてですが、小規模多機能グループホーム大会も昨年度と同様に２日間で開催しました。基調講演ではディズニー研修講師の香取貴信氏と、元吉本芸人で、現デイサービス施設長の中村学氏にご講演いただき、また事例発表では、例年より多い５５事例の発表がありました。学生や一般も含め、延べ５２１名の参加があり、大盛況でした。

ウエルカム講習会は伊勢崎と前橋の２か所で開催いたしましたが、参加人数かやや少なめな印象です。地域密着型サービス事業所の仕事の魅力を、介護未経験者に伝えられるよう、来年度も引き続き講習会を計画したいと思います。

人材育成においては、例年同様、新任者研修とリーダー研修を開催いたしました。また３月にはマネージャー研修を予定しています。初めて行う研修となりますが、管理者の方々に、管理者としての業務を行う上でのヒントを提供できればと考えています。

↑ウエルカム講習会の様子

中北部ブロック活動報告

ブロック長・金井大輔

まずはブロック活動が予定通りに開催できずに、ご迷惑をお掛けしてる事をお詫びいたします。大変申し訳ございません。

また、今年度開催できた研修・定例会に参加して下さった事業所の皆様ありがとうございました。

なかでも、中北部ブロックでは初めての試みとして、ブロックの制限なく研修の開催をお知らせしたところ、他のブロックから多数お申し込みを頂きました。ブロック内のみでは定員割れする研修もあるので募集の有効な方法であることを実感しました。来年度の活動に活かしたいと思います。

西部ブロック活動報告

ブロック長・忌部洋平

西部ブロック長の忌部（いんべ）です。

平成２８年度は大変皆様にお世話になりました。ありがとうございました。

役員になって２年目でブロック長になり、少しでも力になりたかったのですが、

全然行動に移せず、申し訳ありませんでした。

西部ブロックでは、研修を行っていきたいと思っていましたが、懇親会を２回開くことしかできませんでした。しかし、相談しやすい関係、環境作りがまず大事なのではないかと考えていますので、懇親会など顔を合わせる機会を平成２９年度はもっと増やしていきたいです。そこで色々なお話、ご意見、ご要望などをお聞きし、連絡協議会で反映出来ればと思っていますので、どうぞよろしくお願い致します。

熊本被災地へのご支援ありがとうございました

昨年４月の熊本地震発生に伴い、福岡県高齢者グループホーム協議会からの「熊本地震に対しての職員派遣要請への対応依頼」を受け、複数の事業所よりご応募がありましたこと、大変感謝いたします。当協議会からは２名（5/7~11、5/23~27で各1名ずつ）派遣いたしました。

また皆さまからお預かりした支援金は合計で406,640円となり、グループホームへ300,000円、小規模多機能へ106,640円を支援金の取りまとめをしていた福岡県高齢者グループホーム協議会へ送金いたしました。

被災された地域の皆様には謹んでお見舞い申し上げをるとともに、一日も早い復旧を心よりお祈り申し上げます。

▶ 熊本被災地 支援報告　　グループホーム恵の家　金井大輔

私は５月７日から１１日までの５日間、緊急時災害介護派遣チーム（DCAT）の一員として派遣先の福祉施設・避難所等で被災者の支援を行いました。

１チーム５名のうち３名が岩手・新潟・福島からの派遣。ご自身が被災者だった経験があり「その時の恩返しに来ました」と参加の理由を語っていました。また、DCAT以外にも様々な支援団体が活動しており、共通するのは過去に震災を経験している他県からの団体が多かったこと。過去の経験が活かされている事を証明しているかのようで、災害に負けない人々の絆が心強く感じられました。

相談窓口ってどんな感じ？→まずは研修を受けてみよう！

連絡協議会認定 認知症相談窓口になるまでの流れ

おさらいです♪

事業所

1 相談担当者は研修を受講
2 連絡協議会へ「相談窓口設置の申し出」

連絡協議会

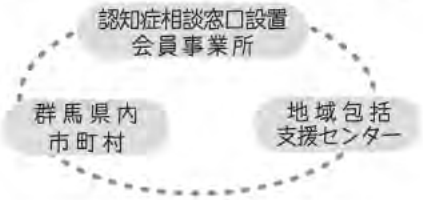
1 研修修了者へ「修了証発行」
2 事業所へ「ステッカー配布」
3 「認知症相談窓口」登録事業所の情報を定期的に県及び市町村へ提供し、住民への周知を依頼。
4 相談内容の集約　　5 広報活動

連絡協議会認定ステッカー（見本）

玄関等に掲示して地域にアピール！
ステッカーのご利用にあたっては「相談窓口規定」をご確認ください。拡大使用は可能ですが、デザイン変更は原則不可となります。屋外向け・強粘着で耐候性のある素材ですが長期間日に当たると色あせ等があります。

ステッカーの追加購入は事務局まで

認知症相談窓口設置事業所と市町村・地域包括支援センターとの連携状況等



地域密着型サービス事業所のうち、認知症相談窓口を設置した事業所と地域包括支援センター、市町村が一堂に会し、連携会議を実施しました。

昨年度は高崎市、今年度は伊勢崎市と前橋市で、連携への取り組みがスタートしています。私たち地域密着型サービスは、自ら社会に発信する努力を続け、限定された利用者だけでなく、広く地域の不特定多数から必要とされる事業所になっていきたいと思います。群馬県や他市町村からもオブザーバー参加がありましたので、今後の県内への広がりに期待したいです。

読書のススメ

～研修でお越しいただいた講師の方々の著書から～

どちらも介護の現場から語られていますので、共感する部分があったり
イメージが湧きやすく、読みやすいと思います。介護に携わるすべての方へオススメします！

鼻めがねという暴力　林田俊弘

虐待の芽は身近にある…リアルに想像できる内容と、
読みやすい文章で、あっという間に読み終えたという方も多数。
管理者の方はもちろん、介護職の方にぜひ読んで
いただきたい１冊。

満月の夜、母を施設に置いて
藤川幸之助

認知症の母を介護する息子の体験から綴られた詩は、ジ～ンとしたり
グッときたり…。心にしみる言葉の数々が、大切なことを教えてくれます。
認知症の方や家族の思いを知ることができる詩集です。

全国グループホーム団体連合会　全国フォーラム　　H２８.11月４日　水戸・茨城県立県民文化センター

水戸で開催された今回の大会は、近隣ということもあり群馬県からも多くの方の参加があり、会場もほぼ満席。当協会の恩田会長、井上名誉会長も登壇しました。グループホームの５つのミッションについての提言をはじめ、それに基づく実践報告や、全国の会員からの意見を交えた活発な討論が繰り広げられました。

ウエルカム講習会

Welcome介護

地域密着型サービスの仕事の魅了を介護未経験者に伝える講習です。今年度は6日間の日程で伊勢崎と前橋2か所で実施しました。広報活動や講師など役員も相当の時間を割いて努力しましたが、参加人数は少なめであり、次年度は検討が必要な模様。「シニアワークプログラム」を請け負うという形でも同様の講習を行っていますので、そちらにシフトする可能性や他の形も検討しています。

Gumma CMS

群馬県地域密着型サービス連絡協議会

事務局　〒371-0843 群馬県前橋市新前橋町 13-12
（群馬県社会福祉総合センター７階）

☎ 027-289-0908

Fax.027-289-0909

e-Mail renkyou@gunmaken-chiiki.net

ホームページ http://www.gunmaken-chiiki.net

会報をなかなか発行することができず、
今年度最初で最後の会報になってしまいました。大変申し訳ございません。

広報担当より